

他者との対話的な学びを通して 文学作品を読み深める学習活動の工夫

（実践者）丸山 佑樹

1 研究テーマ設定の理由

文学作品の読みは本来読者個々の活動であるため、多様な文章の読取が認められるものである。しかし、教室における文学作品の読みの授業では、個々の読取を他者との対話によってさらに深め、自分のものの見方や考え方をより豊かなものにしていく。本研究では、他者と考えを練り合う対話的な学びを通して、文学作品を読み深めるための読みの課題を解決していく授業を構成することで、興味を持って学習に臨み、またより深く文学作品を読む力を伸長させることができると考え、本研究テーマを設定した。

2 研究の内容及び方法

(1) 生徒の読みから生じた疑問を読みの課題とする授業展開の工夫

生徒個々の読取の中で生じた疑問を基に、文学作品をさらに読み深めるための課題を設定する。

(2) 対話的な学習活動による学び合いの充実

ペアや小集団、全体などの学習形態を工夫したり、問答ゲームやジグソー法を用いたりして、個々の読みをさらに深めるための対話的な学びの場を充実させる。

(3) 生徒の活動の様子やワークシート、授業アンケート等の分析

授業における生徒の様子を観察したり、授業で使用したワークシートや授業アンケートを分析したりして、今後の指導・研究に役立てる。

3 研究の実際

(1) 生徒の実態

本学級の生徒（39名）は、「字のない葉書」を扱った単元で、『『最もつらかったのは誰か』というテーマで自分の考えを論じる』というパフォーマンス課題に取り組んだ。多くの生徒が本文の記述を自分なりに解釈し、それを根拠に自分の考えを述べていくことができていた。対話的な学びを通して他者の考えを知ることによって、新たな発見があったり、他者の考えと自分の考えを比較したりすることで、読みが広がったり深まったりした。しかし、話し合いの中で、「母は家族思いだから」といった自己の経験から考えられることのみを根拠に主張を述べる生徒もいた。そこで、文学作品の読みを深めるための話し合い活動では、本文の記述を基に自分なりの解釈を述べる、主張—事実—理由づけを明確にした筋道立った説明を大切にさせていきたい。

(2) 論理的に思考し表現する力を高めるための工夫

文学作品の読みを他者との対話によってさらに深め、自分のものの見方や考え方をより豊かなものにするための学習活動を通して、論理的に思考し表現する力が高まると考える。対話的な学びでは、自分の考えをわかりやすく他者に伝えなければならない。わかりやすく伝えるために、読みの課題に対する自分の考え（主張）を、本文の記述（事実）をどのように解釈したか（理由づけ）を根拠として説明することで、論理的思考力・表現力が高まっていくだろう。

また、読取を深めるための対話的な学びには明確な解のない発問を用いる。「メロスにとってもっと恐ろしく大きいものとは何か」といった問いである。問いについて自分の考えを持つために、言葉の一つ一つを吟味しながら精読する。そして、文章の記述から読み取ったことを根拠として自分の考えをまとめる。そして、問答ゲームや話し合い活動などの対話的な学びの活動を通して他者と考えを交流することで、自分の考えが広がったり深まったりして、文章に立ち現れる人間のものの見方や考え方に迫っていくことができる。単元のまとめの学習活動で「メロスは何のために走ったのか」という読みの課題について、自分の読みを文章にまとめるパフォーマンス課題を設定した。この学習活動によって、これまでの活動を通して読み取ったことを再度思考・整理して、さらに読みを深めることができる。

以上のような指導の工夫をすることで、論理的に物事を捉えたり、自分の考えを根拠を用いて表現したりする力を伸長させることができると思う。

(3) 授業の実際

ア 指導の実際

(7) 単元名

読みを深め合おう ―「走れメロス」(太宰治)―

(イ) 単元目標

文学作品の読みを他者との対話によってさらに深め、自分のものの見方や考え方をより豊かなものにすることができる。

〔本質的な問い〕

文学作品の読解を通して、自分のものの見方や考え方を豊かにするにはどうすればよいのだろうか。

〔永続的な理解〕

登場人物の評価、出来事の解釈、作品の鑑賞・評価などの「内容」や人物の言動、人物関係、場面構成などの「表現」を、本文の記述を根拠に論理的に読み取り、他者との対話の中で意見交流することが有効である。

(ウ) 評価目標と評価方法

評価目標	評価方法
① 文学作品に表れる人間についてのものの見方や考え方を読み取り、他者との対話的な学びによって、自分の考えをさらに深めようとする。(関心・意欲・態度)	◎パフォーマンス課題 あなたは文学作品評論家です。「走れメロス」を題材に、読み取ったことを執筆することになりました。テーマは、「メロスは何のために走ったのか」です。文章から読み取った自分の解釈を論じなさい。(評価目標の①②③)
② 人物の言動や様子、情景描写から、文章に表れている人間についてのものの見方や考え方を読み取り、それに対する自分の考えをもっている。(読むこと)	○授業中の活動観察 (評価目標の①)
③ 人物の心情や考えを表す語句や表現の効果的な使い方について理解を深め、自分の表現に役立てる。(伝統的な言語文化と国語に関する事項)	○ワークシートの記述分析 (評価目標の②③)

(イ) ルーブリック

自分の考えを論じることができているか。
A 自分の考えと本文の記述を基にした根拠につながりがあり、納得いくものである。
B 自分の考えと本文の記述を基にした根拠が書かれてある。
C 自分の考えに対する根拠の内容が不十分や不明確でわかりにくい。

(オ) 指導計画（全 9 時間）

次	学習内容	◇評価規準（観点）	時間
1	文学作品を読み取ろう。 ○導入部から、物語の場面設定を読み取る。 ○展開部から、人物の言動を中心に場面ごとの事件の展開を読み取る。 ○悪い夢の場面から、人物の心情の変化を読み取る。 ○山場の部から、クライマックスを読み取る。 ○山場・終結部を中心に作品の鑑賞・評価をする。	◇文学作品に表れる、人間についてのものの見方や考え方を読み取ろうとしている。 （関心・意欲・態度） ◇文章の構造を捉え、各まとまりごとに本文の内容を読み取っている。 （読むこと） ◇人物の心情や考えを表している描写を本文から見付け、読み取っている。 （読むこと） ◇文中の人物の心情や考えを表す描写を、自分の表現に役立てて書き換えている。 （伝統的な言語文化と国語に関する事項）	6
2	さらに読み深めよう。 ○対話的な学びで多様な考えを知り、理解を深める。 ○パフォーマンス課題に取り組み、自分の考えをまとめる。	◇これまでの学習で文章中から読み取ったことや、対話的な学びで得たことを踏まえ、文章を読み深めて自分の解釈をまとめている。 （読むこと）	2 本時 (その1)
3	作文を読み合おう。 ○自分の考えと他者の考えを比べながら互いの作文と読み合わせる。	◇他者の作文に表れている解釈を読み取り、自分の考えと対照しようとしている。 （関心・意欲・態度）	1

(カ) 第 7 時の授業（7 / 9）

○主 題 話し合いを通して読みを深めよう

○ねらい

対話的な学びの中で、根拠を明らかにして自分の主張を表現することができる。

○展 開

学習活動（形態）	時間	○教師の働きかけ・予想される生徒の反応	○指導の工夫 ◇評価（方法）
1 前時の学習を振り返る。 （一斉）	3	○文章の読取について、学習してきたことを振り返ろう。	○これまでの学びを本時に生かすよう見通しを持たせた。
2 課題を明確にする。 （一斉）	2	学習課題 メロスは何のために走ったのだろう？ ○物語をさらに深く読み、パフォーマンス課題に取り組むために話し合おう。	○パフォーマンス課題とルーブリックを示し、達成目標を意識させることで、意欲的に学習課題に取り組ませた。
3 本文から読み取ったことを整理する。 （全体）	12	○メロスは何のために走ったのだろうか。 ・友との約束を守るため。 ・もっと恐ろしく大きいもののため。	○本文の記述やこれまでの学習で学んだことを振り返ることで、自分の考えに根拠を持たせた。

4 対話的な学びを通して、自分の考えを深める。 (全体)	25	○「もっと恐ろしく大きいもの」とはどのようなものか整理しよう。 ・わけのわからない大きな力。 ・自分を無理矢理走らせるような強い力。	○自分の考えを整理するために問答ゲームを行った。その際、必ず根拠を述べるよう指示した。
		○自分の考えを、本文の記述を基にした根拠を明らかにして述べよう。 ・友人セリヌンティウスとの約束を守り切るため。 ・しかし、愛や名誉や信実のために走ったのではないと本文には書かれてある。 ・メロスがこれまでの人生においては感じたことのないものなのではないか。 ・メロスも言葉では表せないことだったのではないか。	○生徒から出た意見から発問をし、多様な考えを引き出し、各自の考えが深まったり、他者の考えを聞いて広がったりする対話的な学びを充実させた。 ◇文中の記述（事実）から読み取ったこと（理由づけ）を根拠に自分の主張が述べられているか。 (観察・ワークシート)
5 自分の考えを文章にまとめるための構成メモを作る。 (個人) ↓ (ペア)	5	○最終的な自分の考えをまとめる文章を書くための、構成メモを作ろう。 ○完成した構成メモを基にペアで話し合い、論理的に表現することができる構成・内容になっているか検討しよう。	○本時の話し合い活動やこれまでの文学作品の読取を振り返らせて、課題に対する最終的な自分の主張を論じるための構成を考えさせた。
6 学習を振り返り、次時への見通しを持つ。 (個人)	3	○本時の学習内容を振り返り、学んだことやわかったことを授業の記録カードに記入しよう。	

イ 生徒の学びの実際

本授業では、「メロスは何のために走ったのか」というテーマで話し合いを進めている中から生じた「もっと恐ろしく大きなものとは何か」という疑問を読みの課題に設定した。授業における対話的な学びでは、発表した生徒の考えに対して賛成・付足、反対・反論、疑問・提案をしたりしながら、話し合いを進めていった。教師はファシリテーターの役割を担い、他者の意見に対する自分の立場を明確にしたカード（**図 1**）を持って挙手している生徒を指名し発言させることで話し合いを進行した。

「もっと恐ろしく大きなものとは何か」についての生徒の意見では、「愛や正義や信実」「セリヌンティウスがメロスを信じている気持ち」「王様を変えてほしいという民の気持ち」といった本文の記述にあることが中心であった。しかし、それでは「間に合う間に合わないは問題ではないのだ」というメロスの発言と矛盾することに気づき、「ゼウス（神）」「深紅の心臓」「夕日」といった抽象的なものを解とする発言へとつながった。それはメロスも言葉ではっきりとは表現できない何かであるという理由からであった。



図1 発言者の立場を明らかにするためのカード

さらに話合いを進めると、「友や民を救う」「自分の誇りを守る」といった前向きな気持ちだが、さまざまな経験を通してメロスの中で大きく変化したことによって、走る目的も変わっていったという発言もあった。

「メロスは何のために走ったのか」について自分の考えを論じるパフォーマンス課題に対する生徒の作文をループリックと照らし合わせると、Aが31人、Bが8人、Cが0人であった。

ウ 考察

授業での話合いの内容やパフォーマンス課題の作文内容などから、文学作品の読みの深まりを考察する。話合い活動では、本文にある記述を自分なりに読み取ったことを根拠として説明することができている生徒が多くいた。そのため、学習課題に対して自分の考えを持つことができていなかった生徒も、単元末に行ったパフォーマンス課題では他者の意見を参考にしながら自分の考えをまとめることができた。また、他者の発言に対して、賛成や反対意見を述べることで自分の考えがさらに深まっていたと考えられる。論理的思考力・表現力を生かした他者との対話的な学びを通して、文学作品を読み深めることができたと考えられる。

次に、論理的思考力・表現力を高めるための工夫について考察する。授業についての生徒アンケートでは、「筋道立てて物事を考えたり、話したり書いたりする力が伸びた」という質問で「あてはまる」「どちらかというとあてはまる」と答えた生徒がほとんどで、「どちらかというとあてはまらない」「あてはまらない」と答えた生徒が39名中2名であった。「どのような学習活動がこれらの力を伸ばしたのか」という質問については「学習課題に対する話合い活動」「問答ゲーム」「学習課題作り」「単元末の作文を書く活動」などが主なものとして挙げられていた。研究内容でもある、「生徒の読みから生じた疑問を学習課題とする授業展開の工夫」や「対話的な学習活動による学び合いの充実」が論理的思考力・表現力の高まりを生徒自身が実感することにつながっていると考えられる。

以上のことから、本単元の対話的な学びを用いた授業は、論理的に思考し表現する力を高め、また文学作品を読み深める手立てとして、有効であったと考えられる。

4 成果と課題（○成果につながること ●課題につながること）

- 主張－事実－理由づけを明確にした読取や発表をさせることで、論理的思考力・表現力を高めることにつながった。さらに、それらの力を生かした他者との対話的な学びの場を設定することで、文学作品の読みがより深まった。
- 生徒の読みから生じた疑問を大切にした学習課題を設定することで、自力で文章を読み深めようとする能動的な読みの姿勢を身に付けさせることができ、学習意欲が高まった。
- 他者との意見交流の時間を大切にすることで、協働的な学びに喜びを感じさせることができた。

- 主張を裏付ける根拠が，本文の記述をもとにした読み手の解釈なのか，読み手の経験から導き出された根拠なのかを，判断させる批判的に聴く力を身に付けさせる必要がある。